

業務実績書

研 No. 51

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実 ((1) -①)		
<p>【事業概要】 コンピュータウイルスをはじめとする様々な脅威から研究所の情報を守り、正確な情報を発信して行くため、ネットワークのセキュリティを強化する。また、文化財情報の電子化によるデータベース及びホームページに掲載された情報の所内外への提供を推進するため、サーバ機器・ネットワークといった情報基盤システムの整備・充実を行う。</p>			
【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	課長 田中 康成
<p>【スタッフ】 渡 勝弥（文化財情報係長）他 1 名</p>			
<p>【主な成果】 基幹ネットワークシステムの更新及びウイルス対策ソフトを更新することによりセキュリティの強化を図った。また、サーバ及び情報端末をネットワークに接続することにより情報基盤システムの整備・充実を行った。</p>			
<p>【年度実績概要】 基幹ネットワークシステムを更新することによって、情報伝達の効率化・高速化及びセキュリティの強化を行った。また、最新のウイルス対策ソフトを導入することにより、ネットワークシステムのセキュリティ強化を行った。新規サーバ及び各研究室の情報端末をネットワークに接続することにより、情報基盤システムの整備・充実を行った。</p>			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調書

研 No. 51

1. 定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：ネットワーク機器の更新及び最新のウィルス対策を行った。 効率性：ネットワーク機器の更新によりセキュリティ強化を行った。 継続性：不具合なく適切なネットワーク環境を維持した。 正確性：情報漏洩・改竄、ネットワークを介しての攻撃は皆無であった。						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	基幹ネットワークシステムの更新と最新のウィルス対策ソフトを導入することにより、ネットワークシステムのセキュリティ強化を行った。また、サーバ、情報端末のネットワーク接続を行うことにより、情報基盤システムの整備・充実を行った。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ネットワーク機器を更新したことにより、高速化とセキュリティ強化が実現可能となった。

業務実績書

研 No. 52

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	文化財情報基盤の整備 ((1)-①)		
【事業概要】			
文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図り、システム面から文化財に関する専門的アーカイブの拡充、データベースの充実を支援する。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長 二神葉子
【スタッフ】			
田中 淳, 津田徹英, 塩谷 純, 山梨絵美子, 綿田 稔, 江村知子, 小林達朗, 皿井 舞, 城野誠治, 中村節子, 中村明子, 井上さやか, 鳥光美佳子 (以上企画情報部)			
広報委員 (LAN): 川野邊 渉 各部門 LAN 担当: 崎部 剛 (研究支援推進部), 綿田 稔, (企画情報部), 飯島 満 (無形文化遺産部), 森井順之 (保存修復科学センター), 加藤雅人 (文化遺産国際協力センター)			
【主な成果】			
保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施するとともに、リモートアクセスが可能な VPN を導入し、利便性を向上させた。また、広報関係ではホームページのレイアウトを更新し、毎月の活動報告 (和英) の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。			
【年度実績概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク機器の更新 平成 23 年度にハードウェア保守の期限が切れるネットワーク機器を更新した。具体的には、プロキシサーバ、所内 DNS/Web サーバおよびネットワーク/サーバ機器管理システムである。このうち、プロキシサーバの更新は当初計画どおりの実施であるが、節約により、保守期限切れが迫っていた後 2 者についても更新を行った。 ・ネットワーク機器の新設 所内でのみ使用が可能であったグループウェア (ガルーン) や所内のネットワークハードディスクにあるファイルについて、リモートアクセスを可能とするために、セキュリティが確保された形での接続が可能な VPN システムを導入した。これにより、出張等で所外にいる際にもグループウェアによる連絡が可能となった。 ・ネットワークセキュリティの向上 職員が使用しているコンピュータ用のウィルス駆除ソフトウェアについて、従来使われていたものに代えて Kaspersky Anti-Virus および ESET NOD32 の 2 種類のソフトウェアのライセンスを、それぞれ所内で使用されているコンピュータ台数の半数分ずつ購入し、全てのコンピュータが一斉に同一の不具合を引き起こさないよう工夫した。 			
【実績値】			
プロキシサーバ更新 1 件 所内 DNS/Web サーバ更新 1 件 ネットワーク/サーバ危機管理システム更新 1 件 リモートアクセスシステム 1 件			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 東京文化財研究所処理番号 6112

自己点検評価調査

研 No. 52

1. 定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	情報システムの整備についてはネットワーク環境の更新に伴い、セキュリティの強化及び高速化が図られた結果、適時性、効率性、継続性、正確性が向上したと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	情報システムの整備についてはセキュリティの強化及び接続速度の高速化を図るに当たり、現在のユーザ環境を維持しつつ、より効率的な運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新を進めた。来年度以降についても保守期限切れを迎えるネットワーク関係の機器の更新を実施するが、ユーザの意見を取り入れて費用対効果の高い機器の導入とその安定的な運用に努める。

業務実績書

研 No. 53

中期計画の項目	6. 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	専門的アーカイブの充実(資料閲覧室運営) ((1)-(2))		
【事業概要】			
文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりをつまみ、1) 受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、2) 閲覧室で月・水・金の週3回の一般利用者へ所蔵資料の提供、3) データベースの作成、検索システムの構築・ホームページ上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図る。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長 津田徹英
【スタッフ】			
田中 淳、山梨絵美子、二神葉子、塩谷 純、綿田 稔、小林達朗、江村知子、皿井 舞、中村節子、橘川英規、井上さやか、中村明子、城野誠治、鳥光美佳子(以上、企画情報部)			
【主な成果】			
1) 公開用 SQL データの更新・運用 2) 画像資料のデジタル化 3) 近現代美術関係文献等のデータベース化 4) 朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化			
【年度実績概要】			
<p>1) 資料閲覧室の運営: 文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として、インターネット上での公開を目指して朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。また、劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌のデジタル画像化をすすめるとともに、国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。</p> <p>2) 画像情報室: 他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。</p> <p>企画情報部にて作成・更新中の 37 種データベース: 1) 所蔵和漢書(～10)、2) 受入和漢書(11 年度分)、3) 所蔵洋書、4) 所蔵簡易図書、5) 売立目録、6) 所蔵美術館博物館収蔵目録、7) 和雑誌誌名、8) 所蔵洋雑誌誌名、9) 所蔵中国雑誌誌名、10) 所蔵韓国雑誌誌名、11) 所蔵和雑誌巻号(～02)、12) 所蔵洋雑誌巻号(～05)、13) 所蔵和雑誌巻号(03 以降)、14) 所蔵洋雑誌巻号(06 以降)、15) 所蔵中国雑誌巻号、16) 所蔵韓国雑誌巻号、17) 所蔵地方公共団体刊行報告書、18) 所蔵香取秀真資料関係、19) 展覧会(02 まで)、20) 展覧会(03 以降)、21) 近現代作家名、22) 近現代展覧会開催情報(35 以降)、23) 写真原板、24) キャビネット写真、25) 古美術文献目録(明治～65)、26) 美術文献目録(35～07)、27) 美術館博物館名、28) 東京文化財研究所年表、29) 美術研究総目次、30) 撮影調査票、31) 古美術展覧会開催情報(43 以降)、32) 物故者記事、33) 美術懇話会、34) 開所記念展覧会出品目録、35) 美術家美術関係者情報、36) 画廊情報、37) 美術史論壇、</p> <p>インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中の 15 種データベース: 1) 美術関係図書、2) 伝統芸能関係図書、3) 保存修復関係図書、4) 売立目録、5) 展覧会カタログ、6) 和雑誌、7) 写真原板、8) 美術家・美術関係者資料、9) 画廊資料、10) 美術関係文献、11) 『保存科学』所載文献、12) 伝統芸能関係三雑誌所載文献、13) 『美術研究』総目次、14) 近現代美術展覧会開催情報、15) 伝統楽器情報</p>			
【実績値】			
通常フルカラー画像撮影件数 4,847 件、特殊画像撮影件数 1,239 件、デジタル画像撮影の全体に占める割合 100%、図書書受入数: 和漢書 797 件、洋書 99 件、展覧会図録・報告書等 1,986 件、雑誌 1,817 件(受入総数 4,699 件)、37 種の目録所在情報(作成件数 44,492 件、収録件数 1,017,912 件、公開件数 992,355 件)、インターネットで公開中の目録累計数 15 種、資料閲覧室の利用状況: 公開日総数 140 日・利用者年間合計 1,220 人、山梨絵美子・中村節子「日本芸術の研究手法及び情報探索法」日本専門家ワークショップ 2012、国立国会図書館 2012. 2. 17			
【備考】			
所内イントラによる目録の公開 http://www2.tobunken.go.jp			

【書式B】
(様式2)施設名 東京文化財研究所処理番号 6121

自己点検評価調査

研 No. 53

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	文献資料受入 件数	画像資料収集 件数	データベース 公開件数	閲覧者利用者数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	質の高い文化財に関する専門的アーカイブの拡充に努め、一般利用者への提供を行うべく、公開用SQLデータの更新・運用、画像資料のデジタル化、劣化が進む貴重書のデジタル画像化、近現代美術関係文献のデータベース化、インターネット上での公開を目指して朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化をすすめ、実施計画に従い遂行できたので、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に則り、文化財関連の図書等の文字資料およびアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、一般利用者へのそれらの提供、そのためのデータベースや検索システムの構築・運用を行い、あわせて、文化財アーカイブに必要不可欠である画像形成技術等の継続的な更新を行うことで、最先端の研究活動を支援することができた。次年度も、より質の高い専門的文化財アーカイブの充実を目指していきたい。

業務実績書

研No.54

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（(1)-(2)）		
<p>【事業概要】 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。前中期計画（平成17年度終了）の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。</p>			
【担当部課】		無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】
			無形文化遺産部長 宮田繁幸
<p>【スタッフ】 高桑いづみ、飯島 満、今石みぎわ、綿貫 潤、星野厚子（以上、無形文化遺産部）</p>			
<p>【主な成果】 昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵SPレコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認および媒体変換を行った。</p>			
<p>【年度実績概要】 無形文化遺産部が推進した音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された邦楽関連のテープ録音を中心に行った。この当時の放送録音は、放送局にも記録が保存されていないものが多いことから、その資料的な価値が近年再認識されつつあるもので、今年度はCDで170枚を作成した。特殊生成装置が必要な初期音盤（フランス・パテ社製1911年吹込み縦振動レコード）に関しては、東京文化財研究所が所蔵する40枚の内、15枚（30面）のデジタル化を行い、CD6枚を作成した。また、媒体変換を完了した音声資料から、インデックス付与済みCDを36枚作成した。カセットテープに関しては、旧芸能部民俗芸能研究室所蔵テープ、及び寺事の現地録音を中心に内容確認を行い、リストを作成した。 このほか、無形文化財関連の作成DVD423枚を登録した。</p>			
<p>【実績値】 作成資料 [CD] 212枚 [DVD] 423枚</p>			
<p>【備考】</p>			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調査

研 No. 54

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	資料作成数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新たに寄贈された資料を中心に、劣化が懸念される貴重なアナログ資料の媒体変換を行うとともに、デジタル化しただけでは一般の利用には供しがたい音声資料へのインデックス付与も着実に実施している。また、専門の研究者も少なく、これまで収集実績の乏しかった分野に加え、資料的な価値が再認識されつつある放送録音の資料整理も併せて遂行している。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	事業は、従来水準を維持している。また、将来的なデータベース公開へ向けて、所蔵一覧の作成を着実に進めている。以上により、事業の進捗状況を順調と判定した。

業務実績書

研 No. 55

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	文化財に関するデータベースの充実(①-②)		
<p>【事業概要】 文化財情報の特性について具体的な資料の研究に基づいて検討を加え、それに最も適した電子化・情報化の方法を探り実際のデータベース入力を進める。</p>			
【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 難波洋三
<p>【スタッフ】 森本 晋[企画調整部]</p>			
<p>【主な成果】 文化財情報電子化の研究を通じて、GISを活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表している。開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、記載方法の標準化をすすめながらデータの充実を図った。</p>			
<p>【年度実績概要】</p> <p>1. 文化財情報電子化の研究 宝塚古墳公園、池上曾根史跡公園ほかで、発掘調査成果で得られた情報と遺跡公園での情報提示との関係を調査した。遺跡・遺物情報電子化の資料調査として、関連学会の中でも重要な CIPA、地球惑星科学連合に参加するとともに、地理情報システム学会、シンポジウム「人文科学とデータベース」において研究成果の発表をおこなった。</p> <p>2. 文化財情報データベースの充実 遺跡、図書、写真、報告書抄録、航空写真、図面画像等のデータベースについてデータの入力・更新をおこなった。また、データベース検索システムの改良とともに、航空写真データベースの Unicode 化をおこなった。奈良文化財研究所所蔵資料の電子化に努め、特にガラス乾板、大判フィルム、航空写真画像、遺構実測図、遺構カードのデジタル化を進めた。</p> <p>3. 遺跡 GIS 研究会の開催 第 16 回遺跡 GIS 研究会を 11 月 18 日、奈良文化財研究所講堂で開催。発表 4 件。</p>			
<p>【実績値】 研究会開催件数:1 回、参加者数:34 名 研究発表件数:2 件①~② データベース件数 平成 23 年度末 ただし () 内は平成 22 年度末の値 全文 212,650 (211,533)、木簡 149,724 (148,733)、図書 211,397 (228,524)、抄録 65,688 (62,218)、 写真 369,706 (276,965)、遺跡 462,042 (439,700)、航空写真 1,299,667 (1,246,696)、図面画像 61,783</p>			
<p>【備考】 ①森本晋「遺構情報モデルに基づくデータ取得と発掘調査プロセスの整合性」地理情報システム学会 2011. 10. 16 ②森本晋「奈良文化財研究所におけるデータベース」公開シンポジウム「人文科学とデータベース」2012. 1. 7</p>			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調書

研 No. 55

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
<p>備考</p> <p>奈良文化財研究所独自のデータベースを開発・整備して研究に資するとともに公開用データベースを充実させている。この点において、一般国民が求める情報を広く継続的に提供しており、情報の正確さを担保しつつ文化財情報電子化の研究を踏まえた質の向上に努めている。これにより上記諸観点を満たしている。</p>						

2. 定量的評価

観点						
判定						
<p>備考</p> <p>データベースの開発・整備に関しては、データ1件の調整に必要な時間・労力のばらつきが極めて大きいため定量的評価はおこなわない。</p>						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的評価の各観点において十分な水準を維持していることから総合的にAと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各データベースにおいて、着実にデータの充実が進んでいる。新規データの入力だけでなく、既存のデータの更新も行い、さらに研究用に新規開発したデータベースへの入力も順調に開始した。全体として当初計画通りに進捗しているため順調と判定した。

業務実績書

研 No. 56

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信																																						
プロジェクト名称	文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実（(1)－③）																																						
<p>【事業概要】 文化財に関する資料・図書を計画的に収集・整理し、外部の研究者および一般の利用者に積極的に公開・提供するための方策を検討し、実施する。</p>																																							
【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長 田中 康成																																				
<p>【スタッフ】 渡 勝弥（文化財情報係長）ほか7名</p>																																							
<p>【主な成果】 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。</p>																																							
<p>【年度実績概要】 図書等の収集・整理： 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集・整理を行なった。また、国立情報学研究所が構築しているオンライン共同分担目録方式による全国規模の総合目録データベース（NACSIS-CAT）への新規及び遡及入力継続等、所外の利用者への情報提供も行なっている。 図書資料以外では、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行なった。</p> <p>利用者サービス： 歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物等を一般公開施設として広く利用に供している。遠隔地からの図書利用については、国立情報学研究所が行なっている NACSIS-ILL を通じて文献複写・現物貸借サービスを行なっている。</p>																																							
<p>【実績値】</p> <p>受入数：</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">購入図書</td> <td style="width: 20%;">1,171 冊</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>寄贈図書</td> <td>8,302 冊</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>雑誌</td> <td>1,430 タイトル</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>写真</td> <td>7,039 点</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>利用者サービス：</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">一般利用者数</td> <td style="width: 20%;">634 人</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>利用冊数</td> <td>4,067 冊</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>来館者複写件数</td> <td>1,435 件</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>遠隔利用：</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">複写件数</td> <td style="width: 20%;">1,744 件</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>貸出件数</td> <td>121 件</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				購入図書	1,171 冊			寄贈図書	8,302 冊			雑誌	1,430 タイトル			写真	7,039 点			一般利用者数	634 人			利用冊数	4,067 冊			来館者複写件数	1,435 件			複写件数	1,744 件			貸出件数	121 件		
購入図書	1,171 冊																																						
寄贈図書	8,302 冊																																						
雑誌	1,430 タイトル																																						
写真	7,039 点																																						
一般利用者数	634 人																																						
利用冊数	4,067 冊																																						
来館者複写件数	1,435 件																																						
複写件数	1,744 件																																						
貸出件数	121 件																																						
<p>【備考】</p>																																							

【書式B】
(様式2)施設名 奈良文化財研究所処理番号 6131

自己点検評価調査

研 No. 56

1. 定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：刊行された図書資料等の収集・整理・公開を行った。 効率性：利用度の低い部屋を書庫として改修工事を行った。 継続性：図書資料等の収集・整理・公開を滞ることなく遂行した。						

2. 定量的評価

観点	資料の受入数	利用者数	複写件数	貸出件数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	利用頻度の低い部屋を書庫として改修工事を行い、書庫スペースの拡張を行った。書庫の狭隘化を解消するまでには到らないが、仮庁舎移転までの期間を維持できる見込みである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	利用者数、利用冊数、複写件数のいずれもが昨年度以上の実績を出しており、順調といえる。写真登録点数が大幅に減少しているが、写真のデジタル化が進み、ネガ等の登録が減少したものと思われる。 相互貸借については、昨年度実績が無いため比較検討はできないが、初年度の実績としては、問題の無いの件数ではないかと思われる。

業務実績書

研 No. 57

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（(2)-①）		
【事業概要】			
<p>本プロジェクトは研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、および不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。</p>			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長 二神葉子
【スタッフ】			
<p>田中 淳, 津田徹英, 塩谷 純, 山梨絵美子, 綿田 稔, 江村知子, 小林達朗, 皿井 舞, 城野誠治, 中村節子, 中村明子, 井上さやか, 鳥光美佳子（以上企画情報部）</p> <p>広報委員（概要）：岡田 健 各部門概要担当：安孫子卓史（研究支援推進部）、江村知子（企画情報部）、今石みぎわ、高桑いづみ（無形文化遺産部）、犬塚将英（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）</p> <p>広報委員（年報）：田中 淳 各部門年報担当：崎部 剛（研究支援推進部）、津田徹英（企画情報部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）</p>			
【主な成果】			
<p>年報 2010 年度版、概要 2011 年度版を編集、発行した。また、東文研ニュースを年 4 回、東文研ニュースダイジェスト（英語）を年 2 回発行した。</p>			
【年度実績概要】			
<p>「年報」2010 年度版の刊行</p> <p>2011 年 5 月 31 日付で年報を刊行した。2010 年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報担当者が原稿のとりまとめを行った。</p> <p>「概要」2011 年度版の刊行</p> <p>「概要」2011 年度版を刊行した。各ページの構成の決定や原稿のとりまとめについては、各部・センターの概要担当者が行った。</p> <p>「東文研ニュース」の刊行</p> <p>「東文研ニュース」を年 4 回発行した。基本的には、ホームページに掲載した活動報告から四半期ごとの記事を掲載しているが、掲載する記事は各部・センターで選択している。ページ数は固定せず原稿の多寡によって自由に構成し、記事の配置については会議や研究会と現地調査とがバランスよく並ぶようにして見た目の印象にも配慮した。このほか、東文研ニュースには、特定のトピックについてまとめた紹介を行うコラムや刊行物の案内、人事異動などを掲載している。また、「東文研ニュース」の英語版である「東文研ニュースダイジェスト」を年 2 回発行し、外国への情報発信にも努めた。</p> <p>広報紙の配布先の拡大</p> <p>東文研ニュースの配布先については、学芸員研修などの機会に各部・センターで新たな配布先を紹介してもらうなど増加に努めた。一方で、ウェブでの情報発信が主流になりつつなる現在の状況に鑑み、印刷部数については前年度より減らすことで費用の節減に努めた。</p>			
【実績値】			
<p>刊行物数 『東京文化財研究所年報』2010 年度版 1,000 部</p> <p>『東京文化財研究所概要』2011 年度版 5,000 部</p> <p>『東文研ニュース』第 45 号～48 号 各 4,500 部</p> <p>『東文研ニュースダイジェスト』第 10 号・第 11 号 各 3,500 部</p>			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 東京文化財研究所処理番号 6211

自己点検評価調査

研 No. 57

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行物数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東文研ニュース、Tobunken News Digestにより、継続的、定期的に情報発信を行うことができた。東文研ニュース、東文研ニュースダイジェストの発行部数は前年度より減らしたが、情報発信は徐々にウェブが主流になりつつある昨今の事情を踏まえたことと、前年度までの印刷物について大量の在庫が存在していたことから、費用の節減を図った結果である。次年度以降は、概要、年報について前年度より前倒しで作業を進めることで、できるだけ早期の発行によりさらなる情報活用の促進に努めるとともに、費用対効果の向上に努める。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	概要、年報、ニュースの発行を順調に実施することができた。 次年度以降も、これらの媒体による情報発信を継続するとともに、より効果的な情報発信の方法について検討し、ホームページその他インターネットによる情報発信との連携にも努める。

業務実績書

研 No. 58

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	『平成 22 年版日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行 ((2)-①)		
【事業概要】			
各年の美術活動と美術研究、批評の状況を記録するために、昭和 11 年以来刊行を続けている『日本美術年鑑』を年 1 冊刊行するとともに、昭和 7 年 1 月以来、日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術等に関わる研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノート等を掲載する『美術研究』を年 3 冊刊行する。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長 山梨絵美子
【スタッフ】			
田中 淳、二神葉子、津田徹英、塩谷 純、綿田 稔、小林達朗、皿井 舞、江村知子（以上、企画情報部）、中野照男、相澤正彦、三上 豊、吉田千鶴子、森下正昭（以上、企画情報部客員研究員）			
【主な成果】			
今年度は『平成 22 年版 日本美術年鑑』及び、『美術研究』404～406 号を刊行することができた。			
【年度実績概要】			
①『平成 22 年版 日本美術年鑑』 B5 版 479 ページ 2009（平成 21）年美術界年史、美術展覧会（企画展、作家展、団体展）、美術文献目録（定期刊行物所載文献、美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展））、物故者			
②『美術研究』404 号 塚本麿充「皇帝の文物と北宋初期の開封（上）—啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について—」 塩谷 純「秋元洒汀と明治の日本画（一）」 崔 公鎬（稲葉真以訳）「ワンカットの写真に込められた近代工芸史の原風景」 皿井 舞「研究資料 京都・神光院蔵 木造薬師如来立像」 津田徹英「岩手・光林寺蔵 木造聖徳太子立像」 マシュー・P・マッケルウェイ（綿田稔訳）「書評 小島道裕『描かれた戦国の京都』」			
③『美術研究』405 号 日韓共同シンポジウム特輯 田中 淳「特輯にあたって」 洪 善杓（中尾道子訳）「国史形美術史の榮辱—朝鮮後期絵画の解釈と評価の問題—」 田中 淳「創作と評価—萬鉄五郎《風船を持つ女》を中心に—」 綿田 稔「山水長巻考—雪舟の再評価にむけて—」 張 辰城（石附啓子訳）「愛情の誤謬—鄭敷に対する評価と叙述の問題—」 江村知子「江戸時代初期風俗画の表現世界」 文 貞姫（喜多恵美子訳）「石濤、近代における「個性」という評価の視線」 田中 淳「シンポジウム報告（日本会場）」 稲葉真以「シンポジウム報告（韓国会場）」			
④『美術研究』406 号 塚本麿充「皇帝の文物と北宋初期の開封（下）—啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について—」 津田徹英「中世真宗の祖師先徳彫像の制作をめぐる」			
【実績値】			
『日本美術年鑑』刊行数 1 点 (①) 『美術研究』刊行数 3 点 (②～④) 『日本美術年鑑』刊行部数 600 部 配布部数 529 部 『美術研究』刊行部数 各 400 部 配布部数 各 380 部			
【備考】			
①『平成 22 年版 日本美術年鑑』東京文化財研究所 2012. 3 ②『美術研究』404 号 東京文化財研究所 2011. 8 ③『美術研究』405 号 東京文化財研究所 2012. 1 ④『美術研究』406 号 東京文化財研究所 2012. 3			

【書式B】
(様式2)施設名 東京文化財研究所処理番号 6212

自己点検評価調査

研 No. 58

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行物件数	配布部数				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『日本美術年鑑』は物故者目次の様式を改訂し、当該年度の物故者全ての名前と2行ほどの略歴を付した。東日本大震災の被災文化財救援活動のためプロジェクトメンバーの多くが長期間出張したが、従来どおり刊行することができた。また、『美術研究』においては、はじめて特輯を組んで前年度に開催した日韓共同シンポジウムの成果を公表するなど、誌面がより一層充実する傾向にあり、特にこの点は評価できる。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画にあげた実施状況は、順調である。次年度は、『日本美術年鑑』のウェブへのデータ公開の迅速化を図るとともに、同年鑑創刊以前のデータについても補完をめざしたい。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	『無形文化遺産研究報告』・『無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行 (2)-①)		
<p>【事業概要】 無形文化遺産部スタッフによる業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』及び民俗文化財保護行政担当者、無形民俗文化財保存関係者、研究者の参加を得て開催する無形民俗文化財研究協議会の事例報告・総合討議を内容とする『無形民俗文化財研究協議会報告書』を刊行する。</p>			
【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長 宮田繁幸
<p>【スタッフ】 高桑いづみ、飯島 満、今石みぎわ (以上、無形文化遺産部)、星野 紘、永井美和子、松山直子 (以上、客員研究員)</p>			
<p>【主な成果】 1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第6号の刊行。 2) 平成23年12月16日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第6回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。</p>			
<p>【年度実績概要】 ○『無形文化遺産研究報告』第6号を以下の内容で刊行した。 「岐路に立つ無形文化遺産保護条約」宮田繁幸、「韓国、中国の地域の伝統芸能の衰退と無形文化遺産保護施策」星野紘、「東アジアの無形文化財保護制度における伝統的工芸技術の登録状況—日本・中国・韓国の国家級一覧表から—」松山直子、「苙と苙織の技術—山口県下松市西谷を中心に—」今石みぎわ、「特殊再生装置を要する音盤」パテー縦振動レコード」飯島満・永井美和子、「東大寺二月堂修二会 (お水取り) をふり返る」橋本聖圓・佐藤道子・高桑いづみ ○「震災復興と無形文化—現地からの報告と提言—」をテーマとした『第6回無形民俗文化財研究協議会報告書』を以下の内容で刊行した。 I. 序にかえて (宮田繁幸) II. 趣旨説明 (今石みぎわ) III. 現地からの報告と提言： 1 「東日本大震災を乗り越えて—沿岸部の民俗芸能 復興の現状」阿部武司 2 「津波と無形文化」川島秀一 3 「被災集落と神社祭礼について」森幸彦 4 「後方支援と三陸文化復興プロジェクト」小笠原晋 5 「震災と文化復興」 IV. 総合討議 V. 参考資料 VI. アンケート集計結果 VII. 参加者名簿</p>			
<p>【実績値】 発行数 2件 発行部数 1,300部 (『無形文化遺産研究報告』600部、『無形民俗文化財研究協議会報告書』700部)</p>			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調査

研 No. 59

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	発行数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>『無形文化遺産研究報告』: 無形文化遺産をめぐる論考や報告、資料紹介等、幅広い内容の報告書となった。本誌は、将来の無形文化遺産全般の保護行政や研究に資する報告書となることをめざしているが、その目的に適うものとなっている。</p> <p>『無形民俗文化財研究協議会報告書』: 当研究所でおこなった無形民俗文化財に関する研究協議会の報告書で、会場での研究報告や総合討議の様相を掲載したものである。今後もこれまでの研究を踏まえながら、協議会をおこない、報告書を刊行する予定である。</p> <p>以上を総合的に判断して、Aと判定した。</p>

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	両誌ともに、計画通り、年1回の刊行がなされ、目的を順調に達成した。今後もこのペースの維持をめざす。

業務実績書

研 No. 60

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	『保存科学』51号の刊行（(2)-①）		
<p>【事業概要】 保存修復科学センター・文化遺産国際協力センターで行われた文化財の保存・修復に関する調査・研究成果の公開を目的に、年1回研究論文集『保存科学』を刊行する。様々な文化財の科学的調査結果や基礎研究に関する論文、受託研究に関する研究報告・修復処置報告などを掲載する。また、より一層の研究成果の公開に努めるため、『保存科学』掲載論文の電子化を行い、インターネット上での公開を行う。</p>			
【担当部課】		保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】
			保存修復科学センター長 石崎武志
【スタッフ】			
早川泰弘、岡田健（以上、保存修復科学センター）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター）、			
【主な成果】			
今年度の投稿件数は28件であった。全投稿原稿に対して、査読委員による査読を実施し、報文7件、報告20件、計27件の掲載を決定した。版型B5版、総ページ数300頁、発行部数650部、関係諸機関に約580部配布。			
【年度実績概要】			
保存修復科学センター長、副センター長、文化遺産国際協力センター長、東京国立博物館文化財保存修復課長・神庭信幸氏、東京藝術大学大学院美術研究科教授・稲葉政満氏の5名からなる編集委員会を編成した。今年度の投稿件数は28件。全投稿原稿に対して、査読委員（保存修復科学センターおよび文化遺産国際協力センターの正職員、編集委員、および編集委員会が任命した専門委員2名）による査読を実施し、報文7件、報告20件、計27件の掲載を決定した。 今年度は、これまで明文化されていなかった投稿規定、査読規定を編集委員会において作成し、明文化した。投稿規定・査読規定の正式な適用は来年度からとするが、今年度はその試用期間として、これらの規定に基づいた厳正な論文審査を行った。			
【実績値】			
印刷部数 650部 配布部数 約580部 本誌体裁 B5、総ページ数 300頁			
【備考】			
『保存科学』第51号			

【書式B】
(様式2)施設名 東京文化財研究所処理番号 6214

自己点検評価調書

研 No. 60

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考 今回掲載した27本の報文・報告は、最新の調査や研究結果を公表するものであり、速報的な意味合いを持つものもある。全報文・報告について、査読委員による厳正な査読が行われており、掲載内容は一定レベル以上の水準を維持している。						

2. 定量的評価

観点	印刷部数	掲載論文数	印刷頁数			
判定	A	A	A			
備考 掲載報文、報告数は計27本と多く、今年度の成果の充実ぶりを示すものである。印刷部数は650部と、国内外の多くの研究機関などに配布していることを反映している。また、各報文、報告はPDF化し、インターネット上で公開しており、非常に好評である。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	質の高い報文と報告が多く掲載され、刊行物として、またインターネットでの公開を通じて、国内外の研究者にとって重要な情報源として確立している。今後も現在の方法での公開を継続するが、インターネット公開に関しては、より使いやすい形を追求していきたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昭和38年度の第1号以来、確実に刊行を重ねており、今号で51号を数えた。調査研究の成果は公開すべきとの原則のもと、今後もこれまで以上の充実を目指していきたい。

業務実績書

研 No. 61

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	第34回文化財の保存および修復に関する国際研究集会報告書の刊行 ((2)-①)		
【事業概要】			
平成23年1月19日(水)～21日(金)に、東京国立博物館平成館において開催した、第34回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「「復興」と文化遺産」について、報告書を刊行する。			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存計画研究室長 友田正彦
【スタッフ】			
川野邊 渉、山内和也、佐藤 桂、新免歳靖 (以上、文化遺産国際協力センター)			
【主な成果】			
上記研究集会に係る報告書(日本語および英語の各国語版)を編集・刊行した。			
【年度実績概要】			
研究集会に参加した、11ヶ国、15名の講演者および議長に対して、事前提出された原稿、当日講演のテープ起こし、講演内容に基づく新規書き下ろし論文の3種から望ましい形態を選択してもらい、掲載原稿の準備を依頼した。必要な原稿が提出された段階で、日本語は英語に、英語は日本語にそれぞれ翻訳を行い、著者との間で校正作業を進めた。			
報告書はA4版、日本語版182頁、英語版198頁、各300部を作成した。			
【実績値】			
報告書作成 2冊 (①、②)			
【備考】			
①第34回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「復興」と文化遺産—災害、紛争、社会変化—2012.3			
②34th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property, “Reconstruction Process” and Cultural Heritage - Disaster, Conflict, and Social Changes-2012.3			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調書

研 No. 61

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	報告書作成					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初予定の通り、国際シンポジウムの報告書を刊行し、内容的にも充実したものとなった。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財保存に関する情報発信として、シンポジウムの成果をさらに進化させた形で出版物にまとめることで、より広く国内外各層に伝達することが可能である。とくに今回は、シンポジウム開催後2カ月で東日本大震災が発生したため、報告書の作成にあたっては、一部にこの状況変化を反映させてある。テーマも以前に増してタイムリーなものとなったため、広範に活用されることが期待できる。

業務実績書

研 No. 62

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行 ((2) -①)		
【事業概要】	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を発行する。		
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 松村恵司
【スタッフ】			
【主な成果】	紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、合計 10 点を刊行した。		
【年度実績概要】	<p>(紀要等) 『奈良文化財研究所紀要 2011』 2011. 6 月刊、3,000 部 『奈良文化財研究所概要 2011』 2011. 8 月刊、3,000 部</p> <p>(ニュース) 『奈文研ニュース』 NO. 41, 2011. 6 月刊、3,000 部 『奈文研ニュース』 NO. 42, 2011. 9 月刊、3,000 部 『奈文研ニュース』 NO. 43, 2011. 12 月刊、3,000 部 『奈文研ニュース』 NO. 44, 2012. 3 月刊、3,000 部 『埋蔵文化財ニュース』 NO. 146 (環境考古学 10 魚類標本リスト)、2012. 2 月刊、2,500 部 『埋蔵文化財ニュース』 NO. 147 (マイクロフォーカス X 線 CT を用いた木造神像彫刻の非破壊年輪年代調査 (1))、2012. 3 月刊、2,500 部 『埋蔵文化財ニュース』 NO. 148 (東日本大震災被災文化財レスキュー)、2012. 3 月刊、3,000 部、 『埋蔵文化財ニュース』 NO. 149 (2010 年度埋蔵文化財関係統計資料)、2012. 3 月刊、2,500 部</p>		
	 <p>紀要、概要</p>		
【実績値】	紀要 1 点、概要 1 点、奈文研ニュース 4 号、埋蔵文化財ニュース 4 号、計 4 種 10 点を順調に刊行できた。		
【備考】	奈良文化財研究所リーフレットの刊行		

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調査

研 No. 62

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：調査研究の成果を適時に刊行できた。 継続性：継続的な定期刊行物として刊行できた。 正確性：調査報告としての正確性は十分であった。						

2. 定量的評価

観点	刊行数					
判定	A					
備考 計画通りの刊行ができた。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定期刊行物は、研究成果を公表するものとして順調に発行できたことでAと判定した。 次年度も、本年度にまして、多様な研究成果、特に継続的な調査研究の成果を、専門家だけでなく、一般向けにも分かりやすい形での刊行に努めたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	紀要、概要、ニュースの刊行は順調に実施出来た。次年度は、公表方法の検討も含めて刊行の充実を図る。

業務実績書

研 No. 63

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	平成 23 年度オープンレクチャー (2)-②)		
【事業概要】 企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的とする。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長 田中 淳
【スタッフ】 山梨絵美子、津田徹英、二神葉子、塩谷 純、綿田 稔、小林達朗、江村知子、皿井 舞 (以上、企画情報部)			
【主な成果】 第 45 回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した (参加者数 : 236 人、アンケートによる満足度 : 89% (回収率 : 80%)。)			
【年度実績概要】 企画情報部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座を毎年秋に開催しており、本年で 44 回目を迎えた。昨年度同様、今年度も金曜日と土曜日の午後、2 日間連続で開催し、聴講者の便宜を図るように努めた。今回から「モノ／イメージとの対話」をテーマに掲げた。個々の講演内容は以下の通りである。なお、この講座は、上野の山文化ゾーン連絡協議会が主催して毎年秋に開く「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムとしても位置づけられている。 今回は 2 日間でのべ 236 人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、188 人から回答を得た (回収率 : 80%)。満足度に関する回答結果は、「たいへん満足した」104 人、「おおむね満足した」64 人、「普通だった」12 人、「不満が残った」0 人、無回答 8 人、回答者の 89% が満足感を得たことがわかった。 第 1 日 : 「日本美術史における様式の複線性—様式の選択と編集」 2011 年 11 月 11 日 (金) 午後 1:30~4:30、東京文化財研究所セミナー室 「平安時代前期から後期へ—六波羅密寺十一面観音像の造像」 皿井舞 (東京文化財研究所) 「鎌倉時代から室町時代へ—中世やまと絵様式の源流と再生」 高岸輝 (東京工業大学大学院) 第 2 日目 : 「古美術のコンセプト」 2011 年 11 月 12 日 (土) 午後 1:30~4:30、東京文化財研究所セミナー室 「室町漢画の基盤—周文と雪舟の場合」 綿田稔 (東京文化財研究所) 「平安~鎌倉時代の印仏—スタンプのほとけ」 佐々木守俊 (町田市立国際版画美術館)			
【実績値】 参加者数 : 236 人 満足度 : 89% (回収率 80%)			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 東京文化財研究所処理番号 6221

自己点検評価調査

研 No. 63

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、時宜に適応しながら、公表することができ、その参加者数も満足度も目標値を満たしたので、Aと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り、進捗した。次期中期計画においても文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、公開講演というかたちで開催していきたい。

業務実績書

研 No. 64

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	第35回 文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 ((2)-②)		
【事業概要】	第35回 文化財の保存及び修復に関する国際研究集会は、「染織技術の伝統と継承—研究と保存修復の現状—」をテーマとして、無形文化遺産部が担当し、平成23年9月3日～5日、平成館講堂で開催した。		
【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長 宮田繁幸
【スタッフ】	高桑いづみ、飯島 満、菊池理予、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）		
【主な成果】	無形文化遺産分野の工芸技術、中でも染織技術分野をテーマとする初めての開催であり、参加者数、満足度ともに高い評価を得た。また今後の当該分野における研究ネットワーク構築の第1ステップなり得る成果が得られた。		
【年度実績概要】	<p><基調講演></p> <p>「染織技法の伝承—技法の変化・置き換え・相互関係—」長崎巖（共立女子大学）</p> <p>「染織史における復元的研究—江戸時代の小袖に見る染色技法を中心に—」河上繁樹（関西学院大学）</p> <p><セッション1: 染織技術をまもる></p> <p>「日本における染織技術保護の現状と課題 —わざを守り伝えるために—」菊池理予（東京文化財研究所）</p> <p>「日本の国宝天寿国繡帳」韓 尚洙（韓国人間文化財）</p> <p>「織物技術について、現場からの報告」北村武資（重要無形文化財保持者）</p> <p>「繊維の王、絹と共に60年 —刺繍の今昔と現在の伝承と提案—」福田喜重（重要無形文化財保持者）</p> <p><セッション2: 染織品保存修復のいま></p> <p>「メトロポリタン美術館の染織品収蔵管理に携わって —1966年3月-2003年8月—」梶谷宣子（メトロポリタン美術館）</p> <p>「アベッグ財団における染織品の保存ワークショップ —スイスにおける染織品保存の歴史と現状—」ベティーナ・ニーカンフ（アベッグ財団）</p> <p>「染織品保存修理の理念」小林彩子（文化庁）</p> <p>「正倉院宝物にみる染織品の保存修復の歴史」田中陽子（宮内庁正倉院事務所）</p> <p>「染織文化財を伝える —修理の現場から—」城山好美（株式会社松鶴堂）</p> <p>「紋縮緬地熨斗友禅染振袖」修理の報告 —染屋が修理を始めたら—」矢野俊昭（染技連）</p> <p>「日本刺繍と染織品の修復」岡田宣世（女子美術大学）</p> <p><セッション3: 染織技術へのまなざし></p> <p>「異文化を結ぶ技法：絞り染めの米国とその他の地域への広がり」シャロン・タケダ（ロサンゼルス郡立美術館）</p> <p>「外国へのあこがれ：ヨーロッパと日本における“エキゾチック”な染織品の受容とその影響」アンナ・ジャクソン（ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館）</p> <p>「室町時代の舞楽装束に見る染織技術」小山弓弦葉（東京国立博物館）</p> <p>「絵画史研究は染織技術を明らかにすることができるか —中世職人歌合絵を起点として—」土屋貴裕（東京国立博物館）</p> <p><セッション4: 染織技術をつたえる></p> <p>「無形文化財工芸技術分野における後継者育成について」佐々木正直（文化庁）</p> <p>「イギリスにおける染織品保存修復士の教育」石井美恵（女子美術大学美術館）</p> <p>「大学教育における染織技術の継承と保存への取り組み」深津裕子（女子美術大学美術館）</p>		
【実績値】	参加者数：241名 満足度：100%		
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 東京文化財研究所処理番号 6222

自己点検評価調査

研 No. 64

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	無形文化遺産部として初めての工芸技術をテーマとした研究集会であったが、内容面からもまた参加者の反応面からも、充実したものが実施できた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	無形文化遺産部の担当年度において、予定された国際研究集会を充実したものとして実施できた。

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	公開講演会、現地説明会等の開催 ((2) -②)		
【事業概要】 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、公開講演会、現地説明会等の開催により、積極的に公開・提供する。			
【担当部課】	研究支援推進部 連携推進課、研究支援課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長 田中康成 研究支援課長 紅林孝彰
【スタッフ】 村上加代子、車井俊也、今西康益、宮本隆行、飯田信男 [以上、研究支援推進部]			
【主な成果】 公開講演会は、定例公開講演会を2回、特別講演会(東京会場)を1回、飛鳥資料館特別展記念講演会を3回、計6回開催した。 また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計6回実施した。 このことにより調査研究成果を適時適切に国民に公開公表することが出来、事業としては順調に実施できた。			
【年度実績概要】			
I. 公開講演会等			
<p>1. 第108回公開講演会 H23/6/18(土) 聴講者数 250人 場所:平城宮跡資料館講堂 講演者数 3人 アンケート結果=回収数 151人,回収率 60.4%,満足度A=151人(100%)/B=0人/C=0人</p> <p>2. 第109回公開講演会 H23/10/15(土) 聴講者数 141人 場所:平城宮跡資料館講堂 講演者数 3人 アンケート結果=回収数 87人,回収率 61.7%,満足度A=87人(100%)/B=0人/C=0人</p> <p>3. 特別講演会(東京会場) H23/12/3(土) 聴講者数 250人 場所: 学術総合センター(一橋記念講堂) 講演者数 6人 アンケート結果=回収数 110人,回収率 44%,満足度A=109人(99.1%)/B=1人(0.9%)/C=0人</p> <p>4. 飛鳥資料館春期特別展「星々と日月の考古学」記念講演会 H23/5/14(土) 参加者数 160人 場所: 飛鳥資料館講堂 講演者数 2人、アンケート結果=回収数 92人、回収率 57.5% 満足度A=91人(98.9%)/B=1人(1.1%)/C=0人</p> <p>5. 飛鳥資料館秋期特別展「飛鳥遺珍-のこされた至宝たち-」記念講演会 H23/11/6(日) 参加者数 102人 場所: 明日香村立中央公民館 講演者数 2人 アンケート結果=回収数 56人,回収率 54.9%,満足度A=52人(92.9%)/B=4人(7.1%)/C=0人</p> <p>6. 新春特別講演会 H24/1/14(土) 参加者数 36人 場所: 飛鳥資料館講堂 講演者 1人</p>			 <p>6月 公開講演会</p>
II. 発掘調査現地説明会等			
<p>1. 平城第481次(平城宮跡東院地区)816㎡,発掘調査現地説明会 H23/6/19(日),参加者 650人,報告者 1人 アンケート結果=回収数 91人,回収率 14.0% 満足度A=51人(56.0%)/B=40人(44.0%)/C=0人</p> <p>2. 平城第483次(興福寺北円堂) 676㎡,発掘調査現地見学会 H23/9/17(土),参加者 800人,報告者 1人</p> <p>3. 飛鳥藤原第169次(藤原宮朝堂院朝庭) 1,350㎡,発掘調査現地説明会 H23/11/5(土),参加者 620人,報告 1人 アンケート結果=回収数 84人,回収率 13.5% 満足度A=44人(52.4%)/B=40人(47.6%)/C=0人</p> <p>4. 平城第486次(平城京左京三条一坊一坪) 1,668㎡,現地見学会 H23/11/19(土),参加者 200人</p> <p>5. 飛鳥藤原第171次(甘樫丘東麓遺跡)880㎡,発掘調査現地説明会 H24/3/4(日)参加者 1,005人 アンケート結果=回収数 242人,回収率 24.1% 満足度A=118人(48.8%)/B=112人(46.3%)/C=12人(4.9%)</p> <p>6. 平城第488次(平城京左京三条一坊一坪)1,584㎡,発掘調査現地説明会 H24/3/10(土)参加者 850人 アンケート結果=回収数 330人,回収率 38.8% 満足度A=203人(61.5%)/B=125人(37.9%)/C=2人(0.6%)</p>			
【実績値】			
I. 公開講演会等 年6回開催 聴講者延人数 903人、 アンケート回収数 496人、 回収率 54.9% 満足度A= 490人(98.8%)、B= 6人(1.2%) C=0人			
II. 発掘調査現地説明会等 年6回開催 参加者延人数 4,125人内アンケート実施回数4回:参加者延数3,125人 回収 747人 回収率 23.9% 満足度A=416人(55.7%)/B=317人(42.4%)/C=14人(1.9%)			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 6223

自己点検評価調査

研 No. 65

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 公開講演会 適時性：広く一般に公開し、その必要性に答えることが出来た。 独創性：公開は、内容の新規性及び卓越性を持たせ実施することが出来た。 発展性：聴講者は多数かつ多種にわたり、様々な分野への影響が期待される。 継続性：研究成果の継続的な公表、連続的な社会還元につながるものとなった。 正確性：多数が満足する正確性を持った内容であった。						

2. 定量的評価

観点	開催回数	参加者数	満足度			
判定	A	A	A			
備考 公開講演会 開催は予定通り実施でき、参加者のほとんどの方々に満足してもらえる内容であった。 現地説明会等 アンケートの回答で9割の方が満足したと回答した。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	公開講演会については年6回実施し、発掘調査現地説明会等については、6回実施し、いずれも多数の参加者があった。これらの参加者に対して行ったアンケートでは、公開講演会では98.8%、発掘調査現地説明会等で98.1%の「大変満足である」または「おおむね満足である」という結果を得ている。これらの結果を総合的に判断して、Aと認めたものである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	公開講演会、現地説明会の開催は計画のとおり順調に実施できたと考える。 今後もこのペースを維持しつつ、調査研究の成果に基づく講演、現地説明会等の内容及び配付資料の充実、アンケート調査による参加者ニーズの把握、さらには事業広報に力を注ぎ、参加者数の増加と満足度の向上に努めたい。

業務実績書

研 No. 66

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	ホームページの運用 (2)-③)		
【事業概要】			
研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長 二神葉子
【スタッフ】			
田中 淳, 津田徹英, 塩谷 純, 山梨絵美子, 綿田 稔, 江村知子, 小林達朗, 皿井 舞, 城野誠治, 中村節子, 中村明子, 井上さやか, 鳥光美佳子 (以上企画情報部) 広報委員 (LAN) : 川野邊 渉 各部門 LAN 担当 : 崎部 剛 (研究支援推進部), 綿田 稔, (企画情報部), 飯島 満 (無形文化遺産部), 森井順之 (保存修復科学センター), 加藤雅人 (文化遺産国際協力センター)			
【主な成果】			
ホームページのレイアウトを更新し、毎月の活動報告 (和英) の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。			
【年度実績概要】			
ホームページのリニューアル: ホームページのトップページのレイアウトを変更し、各種の情報へのアクセスの利便性を向上させた。また、「東京文化財研究所概要」の情報をもとに調査研究項目や部門ごとに整理した、研究所の業務を紹介するページを作成した。研究所の業務紹介としては、東京文化財研究所の刊行物 (図書) について、1929-2011 年までのデータを掲載した。 ホームページの内容の充実: 『日本美術年鑑』(当研究所刊行) 所載美術界年史 (彙報) (1935 年から 1969 年まで) の掲載など、当研究所で蓄積しているデータの公開を実施した。 ホームページの定期・不定期の情報更新: 各部・センターの調査研究、会議や研究会の開催等の活動について、日本語および英語による「活動報告」として毎月掲載した。また、研究会開催や職員募集、入札公告などの情報については、依頼があり次第ただちに掲載した。 東日本大震災後の対応: 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業に関連する活動や被災した文化財などへの対応について、ホームページによる情報発信を行った。 プッシュ型の情報発信: 活動報告を含むホームページの更新情報や、研究会開催、職員募集や入札公告などの情報を登録者に対して直接発信する手段として、メールマガジンの送信を随時行った。 アクセス数: 本年度のホームページへのアクセス数は 1,314,541 件で、前年度に比べ 174,551 件減少した。			
【実績値】			
ホームページアクセス件数: 1,314,541 件			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 東京文化財研究所処理番号 6231

自己点検評価調査

研 No. 66

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	ホームページ アクセス件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページの運用については、ホームページアクセス件数の高さから、適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性の向上を裏付ける結果だと判断した。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ホームページの情報へのアクセスの利便性向上、データの充実、速やかな更新を実施することができた。ホームページのアクセス件数も前年に比べて増加している。このような実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると考えた。次年度以降も、現在それぞれの部門で独自に作成しているホームページのデザインの統一や、より多くのデータベースの公開など、当研究所の広報をより効果的に実施するための業務を実施していく。

業務実績書

研 No. 67

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	ウェブサイトの内容の充実 ((2) -③)		
<p>【事業概要】 研究所の事業・研究成果をはじめ、施設・案内など様々な広報をしているホームページであり、常に拡充を図っている。社会への広報の目安となるアクセス件数を把握し、より一層の情報提供に務める。</p>			
【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長 田中 康成
<p>【スタッフ】 渡 勝弥（文化財情報係長）他1名</p>			
<p>【主な成果】 奈良文化財研究所ホームページの完全リニューアルを行った。 『墨書土器字典』データベースを公開した。</p>			
<p>【年度実績概要】 奈良文化財研究所ホームページの完全リニューアルを行い、トップページから下層ページまでのスタイルの統一化を図り、より見やすく、より網羅的に情報を公開できるページとした。</p> <p>『木簡字典』の姉妹版にあたる『墨書土器字典』データベースを公開した。 『墨書土器字典』は、土器に書かれた墨書文字のデータベースであり、墨書土器の文字は木簡に比べて字数が少なく文脈で読むのが難しいため、墨書土器の文字データベースの作成が待ち望まれていた。</p>			
			
<p>奈良文化財研究所ホームページ</p>			
<p>【実績値】</p> <p>ホームページアクセス件数：457,154 件</p>			
<p>【備考】 墨書土器収録データ数 平城宮墨書土器 210 点分 画像の種類；カラー画像 17 点、モノクロ画像 207 点、実測図 58 点（いずれも土器単位） 収録文字数；総文字のべ画像数 665 文字、文字種 232 文字</p>			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調査

研 No. 67

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：奈文研の最新情報や研究内容がより明確に公開することが可能となった。 独創性：検索結果を画像とテキストで表示することにより、効果的な実用を可能としている。 継続性：随時更新することによって情報を継続して公開している。						

2. 定量的評価

観点	アクセス件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	従来のホームページよりも操作性に優れており、効果的な情報発信が行えるようになった。 新しいデータベースを公開することによって、研究者のみならず、広く世間により豊富な情報を提供することが可能となった。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ホームページの完全リニューアルと新規データベースの追加による更なる情報の提供が可能となったと認められるため、今年度の実施状況は順調と判断した。

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	平城宮跡資料館における展示公開 ((3)-①)		
【事業概要】 平城宮跡に関する理解促進、ならびに当研究所がおこなう平城宮・京の発掘調査および研究の成果公開や情報発信のため、平城宮跡資料館において常設展・企画展を実施する。			
【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 難波洋三
【スタッフ】 加藤真二、中川あや、渡邊淳子、森先奈々子[以上、企画調整部]、車井俊也[研究支援推進部連携推進課]			
【主な成果】 常設展示に、新たに「考古科学コーナー」を増設した。入口ロビーにて、「文化財レスキュー事業の紹介」の展示をおこなった。秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」、春期企画展「発掘速報展 平城 2011／文化財レスキュー展」を開催した。			
【年度実績概要】			
<p><常設展></p> <p>○「考古科学コーナー」の増設（7月30日から） 資料館北棟に、「考古科学コーナー」を設け、当研究所蔵文化財センターの研究「保存科学」「環境考古学」「年輪年代学」「測量と探査」の内容を展示した。楽しみながら文化財と科学の関係を学べるように体験展示を多く取り入れ、親子連れの集客を図った。</p> <p>アンケート 回収数：244人 回収率：1.2%（集計期間7.30～11.27） 満足度（良以上）：391名 87%（無回答を除く）</p> <p><企画展></p> <p>○春期企画展「発掘速報展 平城 2009・2010」（昨年度より開催） アンケート 回収数：1,230人 回収率：3.2%（集計期間2.19～5.8） 満足度（良以上）：947名 90%（無回答を除く）</p> <p>○ロビー展示「文化財レスキュー事業の紹介」（9月30日から） 東日本大震災で被災した文化財を救済する、文化財レスキュー事業紹介の展示。資料館入口ロビーに展示ブースを設け、事業の概要、主な施設の状況、レスキューの工程などについて説明した。展示ブース内には、募金箱を設置し、レスキュー事業への協力を呼びかけた。</p> <p>○秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」（10月18日～11月27日） 毎年開催している木簡の特別公開。今年度は「文字」に着目し、木簡にみえる文字の形や語順、書きぶり、習書、万葉仮名を例に、古代の人々が試行錯誤しながら中国の文字を体得した過程を読み解いた。 アンケート 回収数：244人 回収率：1.2% 満足度（良以上）：180名 92%（無回答を除く）</p> <p>○春期企画展「発掘速報展 平城 2011／文化財レスキュー展」（平成24年3月10日～5月27日）</p> <p>当研究所が、2011年度に平城宮・京で実施した発掘調査の速報展、および文化財レスキュー事業の展示。発掘速報展は、3地点の調査成果について床に設置した大きな遺構図面をもとに説明した。文化財レスキュー展はロビー展示の内容を増やし、レスキュー活動の内容を、写真や動画、派遣者のコメントや新聞記事、実際に作業で使用した服装や道具を交えながら、解説した。</p>			
【実績値】			
常設展の公開日数：174日		常設展の年間入館者数：80,353名	
企画展の公開日数：89日		企画展の年間入館者数：51,942人	
春期企画展「発掘速報展 平城 2009・2010」 34日 24,238人（今期4.1～5.8）		ギャラリートーク：6回	
秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」 36日 20,120人		ギャラリートーク：3回	
春期企画展「発掘速報展 平城 2011／文化財レスキュー展」 19日（3.31現在）		7,584人 ギャラリートーク：3回	
【備考】 企画展に因んで、リーフレット・パンフレットなどの刊行物を作成した。 秋期企画展パンフレット：『地下の正倉院展－コトバと木簡』（2011.10） 春期企画展パンフレット：『発掘速報展 平城 2011／文化財レスキュー展』（2012.3）			



秋期企画展 展示風景

【書式B】
(様式2)施設名 奈良文化財研究所処理番号 6311

自己点検評価調査

研 No. 68

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性			
判定	A	A	A			
<p>備考</p> <p>適時性：本年度実施した文化財レスキュー事業について、いち早くロビー展示でとりあげ、年度末の春期企画展で詳細を公開するなど、適時性の強い展示をすることができた。</p> <p>独創性：展示構成を検討し展示テーマに合わせた空間づくりを工夫する、体験型展示を取り入れるなど、意欲的にさまざまな展示手法を実践することができた。</p> <p>継続性：常設展の増設や、ロビー展示、企画展の開催など、年間を通じて、平城宮・京および文化財に関わるさまざまな内容を入館者に提供することができた。</p>						

2. 定量的評価

観点	公開日数	入館者数	入館者の満足度			
判定	A	S	A			
<p>備考</p> <p>入館者数は、「平城遷都 1300 年祭」が開催された昨年度には及ばなかったものの、目標値である 85,300 人（リニューアル前の入館者数平均）に比べ、大幅に上回ることができた。</p> <p>アンケート調査による入館者の満足度についても、昨年度以上に高い評価を得ることができた。</p>						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	常設展の増設やロビー展示、企画展の実施など、定期的に新しい内容を展示公開できたことや、展示方法を工夫し、入館者から高い満足度が得られたことから、A判定とした。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昨年度のリニューアルオープン以降、引き続き定期的に企画を実施することができた。また展示構成や展示方法については、昨年度以上に質の高いものを提供することができた。前の中期計画期間にくらべ、さらに向上発展を遂げていることから「順調」と判定した。

業務実績書

研 No. 69

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	飛鳥資料館における展示公開 (3) - ②)		
【事業概要】			
飛鳥資料館において特別展を春秋の2回開催するとともに、企画展、講演会を開催する。平常展示では、第1、第2展示室の展示の維持管理をおこなうとともに、展示の手直しを適宜おこなう。			
【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長 加藤真二
【スタッフ】			
成田聖、丹羽崇史 (以上、飛鳥資料館)			
【主な成果】			
<p>春期特別展「星々と日月の考古学」を4月16日～5月29日に開催し、記念講演会を5月14日におこなった。</p> <p>夏期企画展「鑄造技術の考古学—東アジアにひろがる鑄物師のわざ—」を8月2日～9月4日に開催した。</p> <p>秋期特別展「飛鳥遺珍—のこされた至宝たち—」を10月14日～11月27日に開催し、記念講演会を11月6日におこなうとともに、ギャラリートークを2回開催した。</p> <p>冬期企画展「飛鳥の考古学2011」を1月20日～2月26日に開催するとともに、写真コンテストを主催した。</p>			
【年度実績概要】			
<p>春期特別展「星々と日月の考古学」(4月16日～5月29日) キトラ・高松塚両古墳壁画の天井天文図の特徴を東アジアの天文考古学的に位置づけるとともに、衛星考古学に関する最新の成果を展示した。期間中、加藤真二学芸室長と相馬秀廣奈良女子大学教授を講師として記念講演会(5月14日)を開催した。</p> <p>夏期企画展「鑄造技術の考古学—東アジアにひろがる鑄物師のわざ—」(8月2日～9月4日) 飛鳥資料館が進めている東アジア金属工芸史の研究の成果を中心に、古代日本の鑄造技術を東アジア的視点に立って位置づけた。</p> <p>秋期特別展「飛鳥遺珍—のこされた至宝たち—」(10月14日～11月27日) 明日香村の村外で保管・展示されていたり、村内にあっても普段は展示をおこなっていない、国の重要文化財などの貴重な文化財を里帰り展的に一堂に集めて展示を行い、飛鳥地域がもつ重要性を再評価した。11月6日には相原嘉之明日香村文化財課調整員、木下正史東京学芸大学名誉教授を講師として、記念講演会を開くとともに、期間中に2回のギャラリートークをおこなった。</p> <p>冬期企画展「飛鳥の考古学2011」(1月20日～2月26日) 平成22年度に、飛鳥地域でおこなった奈良文化財研究所、明日香村教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、橿原市教育委員会の発掘調査のうち、興味深い成果が得られたものについて展示したほか、近年まとまった植山古墳や坂田寺跡の多次にわたる調査の成果を示した。また、奥飛鳥の文化的景観が重要文化的景観に選定されたことから、まだなじみが少ない文化的景観についての解説を含め、奥飛鳥の文化財的景観についての展示もおこなった。さらに、これにあわせて、飛鳥を題材とした写真コンテストも開催した。</p> <p>常設展については、キトラ古墳壁画陶板レプリカに照明を取り付けて、まじかで観察できるようにしたほか、水落遺跡で検出された漏刻の原寸大推定復元品をロビーに常設展示した。さらに平成24年度に予定されている第1展示室の改装にむけて設計をおこなった。</p> <p>このほか、1月14日に田辺征夫前館長を講師に新春特別講演会を開いた。</p>			
			
		秋期特別展でのギャラリートーク	
【実績値】			
常設展公開日数	167日	年間入館者数	16,283人
特別展・企画展の公開日数	152日	年間入館者数	26,196人
合計 公開日数	319日	年間入館者数	42,479人
春期特別展「星々と日月の考古学」	44日	10,679人	(4.16～5.29)
夏期企画展「鑄造技術の考古学—東アジアにひろがる鑄物師のわざ—」	30日	3,047人	(8.2～9.4)
秋期特別展「飛鳥遺珍—のこされた至宝たち—」	45日	10,454人	(10.14～11.27)
冬期企画展「飛鳥の考古学2011」	33日	2,016人	(1.20～2.26)
刊行図書：4冊、講演会：3回、ギャラリートーク2回、写真コンテスト1回			
【備考】			
春期特別展図録『星々と日月の考古学』飛鳥資料館図録第54冊			
秋期特別展図録『飛鳥遺珍—のこされた至宝たち—』飛鳥資料館図録第55冊			
夏期企画展カタログ『鑄造技術の考古学—東アジアにひろがる鑄物師のわざ—』飛鳥資料館カタログ第25冊			
冬期企画展カタログ『飛鳥の考古学2011』飛鳥資料館カタログ第26冊			
春期特別展 記念講演会『星々と日月の考古学』			
秋期特別展 記念講演会『飛鳥遺珍—のこされた至宝たち—』			
新春特別講演会『仏教伝来の頃の飛鳥』			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調査

研 No. 69

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
<p>備考</p> <p>春期特別展示は、昨年度までおこなっていたキトラ古墳壁画の特別公開にちなんだ特別展と一連のものである。また、冬期企画展についても恒例の展示となっている。そうしたなか、新たに重要文化的景観に選定された奥飛鳥の文化的景観を取り上げるなどタイムリーな展示ができたと考える。このほか、内外の関係者から強い希望が寄せられていた明日香村出土文化財の里帰り展を行うことができたことなどを踏まえ、適時性、継続性、正確性をA判定と評価した。</p>						

2. 定量的評価

観点	刊行物数	展覧会・講演会数	入館者数			
判定	A	A	B			
<p>備考</p> <p>昨年度末に発生した東日本大震災の影響で、上半期は大幅に入館者数が減少したが、新聞社、放送局の後援による広報活動の充実、ギャラリートーク、新春特別講演会、写真コンテストなどで、下半期にはようやく前年度と比べて入館者数を増加させることができた。 (目標値 48,800人 入館者数 42,479人)</p>						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東日本大震災の影響による入館者数の落ち込みにより、入館者数をBと評価した。これについては、新規の各種取り組みを行い、下半期にようやく回復することができた。この各種取り組みについては、来年度も継続していきたい。また、第1展示室の改装を確実に行って、さらに魅力ある展示を行うことに心がけたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	入館者数のBを除けば、中期計画で掲げた事業は、ほぼ実施することができた。平成24年度も、魅力ある展覧会を実施するとともに、新聞社、放送局の後援による広報活動の充実や新春特別講演会、写真コンテストなどの新規取り組みを一層充実したい。

業務実績書

研 No. 70

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	藤原宮跡資料室における展示公開 ((3) -③)		
<p>【事業概要】 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）に併設された藤原宮跡資料室およびエントランスにおいて、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを実施し、展示公開の充実を図る。</p>			
【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹
<p>【スタッフ】 玉田芳英、清野孝之、降幡順子、石橋茂登、山本 崇、黒坂貴裕、渡辺丈彦・廣瀬 寛、庄田慎矢、木村 理恵、小田裕樹、若杉智宏、高橋 透、森先一貴、橋本美佳、番 光、高橋知奈津、桑田訓也 [以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）]、井上直夫、栗山雅夫、岡田 愛 [以上、企画調整部]</p>			
<p>【主な成果】 常設展示および発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスに発掘調査成果を速やかに公開するための速報展示コーナーを設け、多様な成果を継続的に公開した。あわせて、職員による展示解説、展示のための各種資料制作、パンフレットなどの企画と制作、各地の博物館などへの文化財の貸与をおこなった。</p>			
<p>【年度実績概要】 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）庁舎に併設された藤原宮跡資料室において、通年にわたり常設展示を実施した。また、申請のあった団体などへは展示説明、藤原宮跡および発掘調査現場の案内などの対応をした。 庁舎エントランスに設けた発掘調査成果の速報展示コーナーにおいては、「水落遺跡(165次)」「坂田寺 SK160 出土鎮壇具」「藤原宮造営期の馬の骨に認められる骨病変」「東北日本太平洋沖地震被災文化財レスキュー事業」の各展示を実施した。 利用者むけ印刷物としてリーフレット『特別史跡藤原宮跡』の英語・韓国語・中国版を制作した。 また、各地の博物館などの求めに応じ、当調査部保管遺物ならびに模型・模造品などの貸与、保管遺物のレプリカ作成などへの協力をおこなった。 なおこれ以外に、平成 24 年度に予定される奈良文化財研究所創立 60 周年事業の準備の一環として、庁舎エントランスの一部改築、資料室内の壁面及び展示具などのクロス張替え作業も実施した。</p>			
			
<p>エントランスの速報展示コーナー</p>			
<p>【実績値】 平成 23 年度の入室者数は 2,971 名、開室日 192 日 各種団体などへの展示説明 5 件、他機関への所蔵品貸出 15 件。 印刷物など 3 件（印刷物 3 件①②③）。</p>			
<p>【備考】 印刷物 ①奈良文化財研究所『特別史跡藤原宮跡(英語版)』2012. 3 ②奈良文化財研究所『特別史跡藤原宮跡(韓国語版)』2012. 3 ③奈良文化財研究所『特別史跡藤原宮跡(中国語版)』2012. 3</p>			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調査

研 No. 70

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：調査研究成果を常設展示と速報展示により公開することで多様な要望に応えている。 独創性：展示公開のための文化財の保存修復作業、調査機関ならではの豊富な実物展示に独創性がある。 また外国からの来館者に対応するため英語・韓国語・中国語版のリーフレットを作成した。 発展性：速報展示の展示方法と内容に工夫をし、各遺跡の特徴に的を絞った展示を実現している。 継続性：常設展示および速報展示を通年で公開し、内容を適宜変更している。						

2. 定量的評価

観点	入室者数					
判定	B					
備考 年間入室者数 2,971名（目標 4,509人） 資料室内の改修工事等により開館期間は例年の2/3程度である。閉室期間も考慮すると、年間目標入室者数は3,549人に相当し、判定はBとなる。 （目標入室者数の開館可能期間分換算） 年間目標数 4,509人×192日（開館日数）÷244日（通常年間開館日数）≒3,549人（小数点以下切り上げ） 達成率：2,971人÷3,549人×100≒83.71%→B						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	常設展示とともに、エントランスでの速報展示コーナーの内容が一層充実し、調査成果の速報性がより高まった。開室日数を考慮すると入室者数も適正であり、総合的にAと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	速報展示なども充実した内容のもとに継続的に実施しており、順調と判断した。

業務実績書

研 No. 71

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	文化庁平城宮跡等管理事務所の運営への協力(4)-①		
【事業概要】	文化庁平城宮跡管理事務所の運営に対する積極的協力を以下のとおり実施する。 ○施設の公開・利用等に係る連絡調整及び連携協力 ○各種行事、発掘調査等の連絡調整 ○修繕等に係る相談、状況の把握、等		
【担当部課】	研究支援推進部・研究支援課	【プロジェクト責任者】	研究支援課長 紅林 孝彰
【スタッフ】	(今西康益、宮本隆行、三本松俊徳、飯田信男、米野元則)		
【主な成果】	◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。 ◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援、協力及び関係機関等との調整を行った。 ◇関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備事業 平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。 ○平城宮跡〔対象面積：915,150㎡〕 ○藤原宮跡〔対象面積：257,840㎡〕		
【年度実績概要】	◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。 ○宮跡の公開・活用事業に対する協力・支援、利用申し込み等に対する連絡及び申込者との打ち合わせ ○各種行事、発掘調査等に係る連絡調整 ○宮跡内建物、工作物等の管理・修繕の実施に伴う状況の調査、文化庁・業者との連絡調整、現場対応確認等 ・平城宮跡内東院庭園池循環設備修理及び池清掃等維持 ・平城宮跡内東院庭園景石保存処理・遺構展示館内露出遺構の修復処理 ・平城宮跡内建物等（復原施設・便益施設）・工作物（水路・苑路・看板等、電気設備、防犯設備等）の修理 ・第一次大極殿定期点検（免震装置含む）、朱雀門、東院等復原施設点検及び調査 ○住民等からの苦情対応・取次ぎ及び周辺自治会との協力 ・宮跡内水路、道路等の修理等環境改善及び維持管理 ・蜂の巣駆除等、日常環境改善維持管理 ・宮跡来訪者・利用者等一般からの申し出（防火、防犯、植生、運営等）対応、文化庁への調整 ・地元自治会との協力対応、文化庁への調整 ○平城宮跡内火災対応・異常確認及び報告 ・火災発生への対応及び救急車出動対応 ・禁止行為等（看板設置を含む）に関する文化庁への協力 ○所轄消防署、警察署との連絡調整 ・火災、盗難・強盗等事件捜査への協力 ◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援協力及び関係機関等との調整を行った。 ○平城宮跡地整備・藤原宮跡地整備及び平城宮跡復原施設等（第一次大極殿・朱雀門・東院庭園・推定宮内省・遺構表示施設、遺構展示館等便益施設及び関連工作物）の維持整備推進への計画・設計・整備推進等への支援・協力 ・平城宮跡復原施設等防災設備整備 ・平城宮跡防犯設備整備 ・平城宮跡管理用設備整備 ・平城宮跡及び藤原宮跡文化庁施設応急修理等整備 ○国土交通省国営公園整備事業の計画・設計・整備推進等への支援・協力及び文化庁との調整、これに関連する文化庁所管事項等への支援・協力 ○平城宮跡・藤原宮跡における国有地公有化範囲等国有財産の状況確認 ○藤原宮跡管理修繕及び地元自治会との協力対応、文化庁への調整等支援協力 ○山田寺跡復旧整備事業の計画・設計・整備維持等、文化庁事業への支援・協力 ◇関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備業務 ○平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために宮跡地内の草刈植栽業務等及び宮跡地内における不具合対応策提案を実施。 ・平城宮跡 草刈り等（芝、雑草、草花類） 実施時期：4月～11月、作業回数：1回～7回 植栽等（表示、環境樹木類） 実施時期：12月～3月、作業回数：1回～4回 その他 側溝東工作物清掃維持、害虫駆除 ・藤原宮跡 草刈り等（芝、雑草、草花類） 実施時期：4月～11月、作業回数：1回～2回 植栽等（表示、環境樹木類） 実施時期：12月～3月、作業回数：1回 その他 耕作物用水路等隣接部清掃維持、側溝等工作物清掃維持、害虫駆除		
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調査

研 No. 71

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：緊急性の高い連絡・修繕相談等へ適時に対応 独創性：宮跡内建物、工作物等の維持管理に寄与 効率性：専門知識を生かした協力による人的投資の効率性 継続性：需要に応じた継続的な連携協力体制						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮跡・藤原宮跡等の公開・活用に必要な準備等に積極的に協力し、また、平城宮跡等において発生する緊急性の高い連絡等に良く対応している。 さらに、平城宮跡国営公園化の実施に伴う専門的支援を行っており、これら事業の推進に伴う文化庁等からの相談等に良く対応している。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	施設の公開・利用等の連絡、各種行事・工事・発掘調査の連絡、修繕相談・状況の把握等、各業務について積極的に協力できた。 特に、事故、事件、火災、修繕相談等は、緊急性の高い場合が多かったが、適時・的確に対応できた。 なお、今後、平城宮跡国営公園化の実施に伴い、平城宮跡等の管理の協力・支援の在り方について検討する。

業務実績書

研 No. 72

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力 ((4) -①)		
<p>【事業概要】 第一次大極殿院地区を中心とする平城宮跡の整備・公開・活用に関する調査研究のため、国土交通省の行う復原整備計画に沿った実践的調査研究を実施する。さらに『特別史跡平城宮跡保存整備基本計画推進計画』に基づく具体的な整備内容に対して、専門的・技術的な援助・助言をおこなうため、復原・整備に関する資料の整理や検討、新たにおこなうべき調査研究の計画案などを提示する。また、国土交通省等の主催する会議等に参画し、専門的・技術的な援助・助言をおこなう。</p>			
【担当部課】	都城発掘調査部 (平城)	【プロジェクト責任者】	副所長 井上和人
<p>【スタッフ】 小池伸彦、渡辺晃宏、箱崎和久、今井晃樹、馬場 基、神野 恵、森川 実、青木 敬、大林 潤、鈴木智大、海野 聡、芝 康次郎、諫早直人、山本祥隆、井上麻香、北山夏希 (以上、都城発掘調査部)、今西康益、宮本隆行 (研究支援推進部)</p>			
<p>【主な成果】 第一次大極殿院復原検討会を17回開催し、そのための資料収集と整理、国内外の類例調査などをおこなった。また平城宮跡の整備・活用に向けての基礎的な資料の収集と、整備施工に対しての事前立会調査等をおこない、遺跡の保護・保全といった観点を含めて、十分に対応することができた。</p>			
<p>【年度実績概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第一次大極殿院復原検討会の準備と開催 <p>復原検討会のための基礎資料(発掘遺構・現存建物の図面等)の収集と整理をおこなった。また類例調査として、国内1回、海外の中国3回、韓国3回、ベトナム1回をおこない、調査のための資料等を収集した。類例調査の成果は検討会の俎上にのせ、復原案の作成・検討に生かしてゆく。復原検討会は計17回開催した。開催後は検討会記録の作成に向け、発表録音の活字化・校正、発表資料の再整理、印刷原稿の作成などをおこなった。また国土交通省が開催した国営平城宮跡歴史公園第一次大極殿院建造物復原整備検討委員会へオブザーバーとして出席し、上記検討会の検討経過等を報告した。</p> 2. 平城宮跡の整備に関する設計条件の整理 <p>第一次大極殿院の復原整備にともない、南に隣接する中央区朝堂院地区なども整備の対象となり、また平城宮跡全体の整備・活用を含めた検討が必要になっている。2001年の独立行政法人化以前は、奈良国立文化財研究所が平城宮跡の整備を担当し、整備資料も保存されており、現在の整備の設計に生かせる点も多い。これら過去の奈良国立文化財研究所の整備内容を整理し、また発掘遺構の標高や旧水田高、電気・機械関係のインフラ関係の整備方法などについて検討し、必要に応じて国土交通省へ提出した。</p> 3. 具体的な整備の施工にともなう事前立会調査 <p>平城宮跡内の整備あるいは活用にともない、地下の掘削がおよぶ工事に関しては、立会調査をおこない遺構が破壊されないようチェックした。これらは立会日誌として、写真撮影をともなう記録を作成した。たとえば第一次大極殿院の南西へトイレを設置する工事にあたっては、その建屋建設時だけでなく、そこに引き込む電気や水道の配管埋設をおこなう必要があり、その工程にあわせて数日間の立会をおこなった。このような立会調査への出勤は、平城宮跡だけで20件100日以上に及んだ。</p> 			
<p>【実績値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次大極殿院復原検討会開催数；17回、これに伴う類例調査；国内1回、韓国3回、中国3回、ベトナム1回 ・第一次大極殿院建造物復原整備検討委員会への出席；平成23年6月7日、7月4日 ・検討会の記録集『第一次大極殿院復原検討会記録3』『同4』をまとめた。 ・平城宮跡内の整備工事にともなう立会調査出勤回数；20件100日以上。 			
<p>【備考】</p>			

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調査

研 No. 72

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	正確性	独創性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 <p>第一次大極殿院の復原検討会は、国土交通省による平城宮跡の国営公園整備・活用にもなう事業の一環として、奈良時代の大極殿院の復原案作成にむけて、復原対象としている遺構の再精査だけでなく、類例となる発掘遺構や現存遺構の資料収集、あるいは現地調査をおこない、検討を重ねてきている。昨年度来の事業の継続ではあるが、過去の検討成果をふまえて、総合的な視点から新たな復原案の構築を目指している。復原案の是非はともかく、その方法論は、今後、全国の遺跡整備の現場でも応用すべき手法であり、さらには建築史学や考古学の研究の深化へつながると考えている。</p> <p>平城宮跡の整備工事に対しては、今後の整備・活用に向けての基礎的な資料収集をおこない今後の整備に生かして行くことができると考えられる。また工事施工にもなう事前立会調査については、遺跡の保護・保全といった観点から、十分な対応をとることができた。</p> <p>上記のような諸点は、適時性・継続性・発展性・正確性・独創性の評価を十分満足させることができると考えている。</p>						

2. 定量的評価

観点	収集資料数	記録件数				
判定	A	A				
備考 <p>第一次大極殿院の復原検討会に当たっては、直接的な大極殿院の発掘遺構だけでなく、類例として発掘遺構と現存建築遺構についての情報を収集した。その収集資料は、検討会の組上にあげたものだけでも、発掘遺構・現存建築遺構とも150例以上におよび、また今後の検討のために資料を先行収集している遺構を含めると、その数は膨大になる。復原に当たって、同時代の宮殿建築が現存しないなかで、根拠とすべきものの一つが類例であり、決してその数は十分でないかもしれないが、時間的制約もあるなかで、検討すべき十分な資料を収集できていると考えている。検討会の発表資料および検討成果は、資料集としてまとめており、記録化の要請にも十分に答えていると考えている。</p> <p>平城宮跡の整備工事にもなう事前の立会調査については、現場に調査員が赴いて、写真撮影などの的確な調査をおこなったうえで立会日誌を作成しており、正確な記録化を実現している。</p>						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>第一次大極殿院の検討会については、短期間に濃密な研究・検討を重ねており、高く評価できると考えている。次年度以降も同様のペースで進めていきたい。平城宮跡の整備に対する対応も、十分におこない、遺跡の保護も図ることができている。</p>

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	<p>第一次大極殿院の復原研究は、これまでの朱雀門や大極殿、東院庭園などの復原検討に比しても、すでにそれらをしのぐ調査と検討を重ねており、順調と評価できると考えている。次年度は上部構造の具体的な検討をおこない、復原案の全貌を示すことができるよう、いっそう努力してゆきたい。</p> <p>平城宮跡の整備にもなう資料収集と事前立会調査に関しても、的確に対応できている。独立行政法人化以前の奈良国立文化財研究所による平城宮跡の整備についても、まとめていきたい。</p>

業務実績書

研 No. 73

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力（(4)－①）		
【事業概要】 国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設にあたり、主に学芸に関わる部分において、専門的な見地から協力をおこなう。			
【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 難波洋三
【スタッフ】 加藤真二、中川あや、渡邊淳子、森先奈々子[以上、企画調整部]、			
【主な成果】 展示基本設計の策定に必要な、展示テーマや展示内容案を作成し、展示構成および展示手法について、設計業者と協議を重ねた。その展示計画案に基づき、展示物の立案、検索や調査、リスト化をおこなった。また設計業者の要望に応じて、展示設計上参考となる図面や画像などの多様な参考資料を、用意し提供した。			
【年度実績概要】 基本設計策定に向けての協力 ○詳覧ゾーンの展示内容の検討 テーマを決定し、各コーナーでの展示について、展示内容・展示構成・展示手法の面から検討し提案した。 ○展示物の検討、リスト化 各コーナーに展示する展示物の検討をおこない、候補となる資料の内容を確認し、リストを作成した。 ○設計に関する助言・提言 各コーナーのゾーニングや、展示室および展示設備の仕様などについて、質問に回答し助言・提言した。 ○参考資料の提供 展示館ガイドンスゾーンならびに詳覧ゾーン内の設計に必要な参考図面・画像を提供した。			
【実績値】 国土交通省地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所平城分室との打合せ 10回 (※うち、全体会議…5回、展示に関する設計業者との分科会…5回) 展示企画室内での展示検討会…8回			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 奈良文化財研究所処理番号 6413

自己点検評価調査

研 No. 73

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			
<p>備考</p> <p>適時性：当該施設は、2016～2017年度に竣工予定の平城宮跡に関わる施設である。その建設に、平城宮跡を長年調査してきた当研究所が基本設計段階から携わることで、わが国の文化財の保護と活用に寄与するものとする。</p> <p>発展性：当該施設は、国営歴史公園平城宮跡の公開施設として重要な役割を担うことが予想される。とりわけ展示を通じて与えられる情報は施設を利用する多くの入館者に影響を与えるため、平城宮跡を長年調査してきた当研究所が展示に関わることで、施設の質的向上につながる。</p> <p>効率性：国土交通省地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所平城分室より、基本設計に関する具体的な協力要請があった9月以降、年度末までの基本設計策定に向け、時間的・人的に限られているなか、展示内容の検討、資料収集や調査、展示候補物のリスト作成など非常に多くの業務を遂行し、より良い展示案になるよう最大限の努力をした。</p>						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展示内容立案、資料調査、リスト作成、資料提供など多大な協力をすることで、展示基本設計の策定に貢献し、限られた現状（時間・人員）のなかで最大限の成果をあげたため、A判定と判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現状では「協力」の範疇を超えた業務内容で、業務過多になっている。次年度以降は、体制を含め国土交通省への協力のありかた、関係性を明確にするとともに、それらに基づき当研究所内での対応体制を検討することで、より質の高い展示館の案が策定され、公益に資すると考える。

業務実績書

研 No. 74

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力 ((4) -①)		
【事業概要】			
国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設とその展示に対して、助言・協力を行う。			
【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長 加藤真二
【スタッフ】			
成田聖、丹羽崇史（以上、飛鳥資料館）			
【主な成果】			
国営飛鳥歴史公園事務所が開催した「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」（平成 24 年 3 月 7 日）に出席し、体験学習館の基本設計（案）作成に協力した。			
【年度実績概要】			
国営飛鳥歴史公園事務所が開催した「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」（平成 24 年 3 月 7 日、於：国営飛鳥歴史公園事務所）に出席し、同事務所から提示のあった体験学習館の基本設計（案）の作成に協力した。			
【実績値】			
「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」（平成 24 年 3 月 7 日、於：国営飛鳥歴史公園事務所）出席 1 回			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 奈良文化財研究所処理番号 6414

自己点検評価調査

研 No. 74

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
備考 「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」に参加する等、「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想」に基づく体験学習館の基本設計（案）の作成に引き続き協力した。						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	3月7日に開催された「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」に出席し、同事務所から提示のあった体験学習館の基本設計（案）の作成に協力した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設とその展示に対する助言・協力をおこない、飛鳥・藤原宮跡等の公開活用事業の進展に努めた。

業務実績書

研 No. 75

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティア事業の実施 ((4) -②)		
【事業概要】			
平城宮跡への来訪者に奈良文化財研究所の調査研究の成果を発信するとともに、平城宮跡の歴史や文化財に対する理解を深めてもらうため、平城宮跡資料館や遺構展示館、東院庭園、朱雀門、第一次大極殿の復原建物等の案内・解説を行う平城宮跡解説ボランティアの運営を実施する。			
【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長 田中康成
【スタッフ】 渡邊淳子 [企画調整部]、村上加代子、車井俊也 [以上、研究支援推進部]			
【主な成果】			
高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。			
【年度実績概要】			
この事業は10年を超え総体的に定着してきている。定点解説のほか、予約及び当日受付した来場者を対象に「ツアーガイド」として宮跡内散策に同行し解説を行った。			
活動者に対しては、奈良文化財研究所が主催する専門研修及び他機関のボランティアが文化財関係を解説する場に赴き臨地研修を実施した。また、活動拠点でもある平城宮跡資料館が企画する展示ごとに、展示趣旨の解説をその都度研究所研究員により実施した。			
各個人の研さんに加えてガイド技術の熟達を促進し、運営の充実を図った。			
さらには、解説機会の充実のため、平城宮跡への招客チラシなどを適所に配布し、その広報に努めた。			
			
解説中：朱雀門より第一次大極殿			
【実績値】			
<ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡解説ボランティア登録数：173名 ・解説活動日数 307日 ・解説活動数延べ 4,045人 (1日あたり13人) ・ボランティア解説を受けた来場者延べ人数：約124,492人 ・ボランティアに対する学習会等 <ul style="list-style-type: none"> 平城宮跡資料館秋期企画展示研修 3回 〃 春期企画展示研修 1回 講演形式専門研修 2回 臨地ガイド研修 1回 			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 奈良文化財研究所処理番号 6421

自己点検評価調査

研 No. 75

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 適時性：来訪者の様々な知識需要・必要性に対し、その場にて十分な対応が出来た。 発展性：多種多様な層の来訪者へ解説ができ、その反響は大きかった。 効率性：解説に係る時間的・人的投資は効率よく出来た。 継続性：年間を通して、とぎれず継続した解説者の配置を行うことが出来た。 正確性：研修で得た知識・経験を基に正確な情報を伝えることが出来た。						

2. 定量的評価

観点	ボランティア登録数	解説受講者数				
判定	A	A				
備考 定点解説、ツアーガイド数とも順調に伸びを維持しており、平城宮跡をはじめとする文化財への理解を広めることに大きく貢献した。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ボランティアによる解説を通じて文化財の理解を広めることに大きく貢献した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	解説するボランティアへの学習・研修機会を提供し、そのレベル向上につなげ、登録ボランティア数の維持、繰り返した広報による解説受講者数の増加を図ることなどボランティア運営に対する積極的な支援が順調に実現できたと考える。 今後もこのペースを維持し、奈良文化財研究所の情報発信、さらには平城宮跡の公開活用につながるよう力を注ぎたい。

業務実績書

研 No. 76

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加 ((4)-③)		
【事業概要】 平城宮跡内でのマナー向上や防災・防犯に関して、平城宮跡みまもり隊へ参加することにより、平城宮跡内でのマナー向上や防災・防犯に寄与する。			
【担当部課】	研究支援推進部研究支援課	【プロジェクト責任者】	研究支援課長 紅林 孝彰
【スタッフ】 (今西康益、宮本隆行)			
【主な成果】 平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。			
【年度実績概要】 毎月1回活動を実施した。(8月及び雨天は実施しない) 4月30日(土)、6月25日(土)、7月24日(日)、9月25日(日)、10月29日(土)、1月29日(日) 3月25日(日) 毎回平城宮跡を南回りと北回りの班に分けて宮跡内を1時間から2時間かけて歩き、平城宮跡来訪者に防犯メッセージが書かれたティッシュペーパーの配布やマナー向上、火災や宮跡内にある看板等の毀損予防のパトロール活動を行った。この活動を通じて平城宮跡来訪者に対してマナーの向上や防災・防犯意識を高める活動を行った。この活動は、地元の警察署、消防署や県などの行政機関やNPO法人平城宮跡サポートネットワーク等の協力連携のもと行われている。			
【実績値】 実施回数 年7回実施 延べ参加人数 111人			
【備考】			

【書式B】
(様式2)施設名 奈良文化財研究所処理番号 6431

自己点検評価調査

研 No. 76

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：市民ボランティアと共に活動を行った。 発展性：参加者はみまもり隊員に加え一般市民も加わることもあった。 継続性：年間計画に従って活動を行い、連続的な社会還元が出来た。						

2. 定量的評価

観点	開催回数	参加者数				
判定	A	A				
備考 雨天により実施出来ない日以外は予定通り実施した。参加者は延べ111人が参加した。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	実施回数は7回開催し、参加者数は延べ111人と多数の参加者があった。 宮跡内の問題事項等について、警察等と協力して問題解決に尽力した。 マナー啓発看板を設置し宮跡来場者のマナー向上を図った。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	宮跡のパトロールに定期的に参加するとともに、定期開催日以外にも宮跡内のパトロールを行い、宮跡内の来訪者の安全・安心に寄与した。 今後も啓発看板の設置、パトロール回数、パトロール時間の検証を行うことにより、効果的なパトロールを実施する。

業務実績書

研 No. 77

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信																						
プロジェクト名称	NPO法人等への支援 ((4) -④)																						
<p>【事業概要】 平城宮跡で活動しようとする各種ボランティア、また文化財関係のボランティアに対して要請があれば、奈良文化財研究所施設を活動の場所として提供することや、文化財に関する学習会等への講師の派遣を行う等の支援を行い、ボランティア団体の育成に寄与する。</p>																							
【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長 田中康成																				
<p>【スタッフ】 村上加代子、車井俊也 [以上、研究支援推進部]</p>																							
<p>【主な成果】 ボランティア団体への支援は、その育成につながった。</p>																							
<p>【年度実績概要】 平成13年11月に設立された「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、活動場所、講師の派遣など積極的な活動支援を行った。 特に今期は、共催で「平城っ子歴史教室」を実施し、年間を通して連続した支援ができた。</p>																							
																							
<p>「平城っ子歴史教室」現場にて</p>																							
<p>【実績値】 奈良文化財研究所が支援し、ボランティアが実施した主な事業名称、回数、活動場所、従事ボランティア数、参加者数</p> <table border="0"> <tr> <td>平城っ子歴史教室</td> <td>11回開催</td> <td>平城宮跡資料館講堂ほか</td> <td>ボランティア延べ66名、参加者数延べ220名</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡歴史文化講座(講演会)</td> <td>3回開催</td> <td>平城宮跡資料館講堂</td> <td>ボランティア延べ55名、参加者数延べ678名</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡歴史文化講座(遺跡見学会)</td> <td>1回開催</td> <td>飛鳥藤原地区</td> <td>ボランティア延べ8名、参加者数延べ24名(講師派遣)</td> </tr> <tr> <td>万葉集勉強会</td> <td>12回開催</td> <td>平城宮跡資料館小講堂</td> <td>ボランティア延べ48名、参加者数延べ240名</td> </tr> <tr> <td>拓本づくり教室</td> <td>1回開催</td> <td>平城宮跡資料館</td> <td>ボランティア延べ8名、参加者数延べ26名</td> </tr> </table>				平城っ子歴史教室	11回開催	平城宮跡資料館講堂ほか	ボランティア延べ66名、参加者数延べ220名	平城宮跡歴史文化講座(講演会)	3回開催	平城宮跡資料館講堂	ボランティア延べ55名、参加者数延べ678名	平城宮跡歴史文化講座(遺跡見学会)	1回開催	飛鳥藤原地区	ボランティア延べ8名、参加者数延べ24名(講師派遣)	万葉集勉強会	12回開催	平城宮跡資料館小講堂	ボランティア延べ48名、参加者数延べ240名	拓本づくり教室	1回開催	平城宮跡資料館	ボランティア延べ8名、参加者数延べ26名
平城っ子歴史教室	11回開催	平城宮跡資料館講堂ほか	ボランティア延べ66名、参加者数延べ220名																				
平城宮跡歴史文化講座(講演会)	3回開催	平城宮跡資料館講堂	ボランティア延べ55名、参加者数延べ678名																				
平城宮跡歴史文化講座(遺跡見学会)	1回開催	飛鳥藤原地区	ボランティア延べ8名、参加者数延べ24名(講師派遣)																				
万葉集勉強会	12回開催	平城宮跡資料館小講堂	ボランティア延べ48名、参加者数延べ240名																				
拓本づくり教室	1回開催	平城宮跡資料館	ボランティア延べ8名、参加者数延べ26名																				
<p>【備考】</p>																							

【書式B】
(様式2)施設名 処理番号

自己点検評価調査

研 No. 77

1. 定性的評価

観点	継続性	効率性	発展性			
判定	A	A	A			
備考 継続性：支援事業は、継続的に実施された。 効率性：奈良文化財研究所の施設を有効かつ効果的に使用し、参加者への広報・成果発表につながった。 発展性：子供達等の将来につながる好影響のある体験学習を実施した。						

2. 定量的評価

観点	支援事業数等					
判定	A					
備考 支援事業の定量（従事ボランティア数、講師派遣数、参加者数）については、順調である。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城っ子歴史教室、平城宮跡歴史文化講座等への講師派遣、活動場所提供の支援を行い、活動の活性化に貢献した。 これらを総合的に判断して、Aと認めたものである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ボランティア団体の活動要請に対し、積極的に支援し、各事業が行われた。 今後も各種ボランティア育成に寄与したい。